（様式２）

3	4	0	0	7

令和６年度　自己評価及び学校関係者評価書

令和７年２月２１日
札幌市立北白石中学校

１．本年度の学校運営の基本方針

「すべての子どもが『自分が大切にされている』と実感できる学校」
(1)子どもの立場に立つ
(2)信頼関係の構築を図る
(3)学ぶ楽しさを実感させ、学び合いにより深化させる
(4)自己有用感を育む

２．本年度の学校運営の重点

(1)　基礎・基本を定着させるために、学習への意欲を高め、学習習慣の確立を図る
(2)　挨拶・言葉遣い・思いやりの心の重視
(3)　気づき考え行動する生徒のはぐくみ
(4)　小中一貫した教育を目指したパートナー校との連携
(5)　特別支援教育、不登校支援の充実
(6)　信頼される学校の創造

３　自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	経営方針や重点目標に基づいて、校務組織や教育課程の編成が行われている。	A	重点目標「気づき・考え・行動する生徒」の意味を理解しているかについて、生徒・保護者ともに肯定的な回答が８割近くまでに改善されている。また教育課程の見直しと働き方改革を進めており、より機能的な組織になりつつある。次年度は、さらに行事の精選に取り組んでいく。	A	A
	北白石の特色や生徒の実態を踏まえ、教育課程、教育環境を生かして取り組んでいる。	A	授業や学校行事、部活動などへの生徒の肯定的な回答は８割を超え改善が進んでいる。一方、オンライン授業やＩＣＴの活用等の効果には、大幅な改善がみられるが、肯定的な回答が７割に満たず、まだ課題が残る。不登校生徒や支援を必要とする生徒への指導や体制づくりに力を入れており、今後も継続していく。	A	A
	「対話」を重視し、すべての生徒が「自分が大切にされている」と実感できる教育活動を行っている。	A	生徒と教職員の対話の機会を確保するために、教育課程のスリム化や教職員の働き方改革に着手し、機動的かつ臨機応変な対応によって、当初から計画されている教育活動が実施できている。次年度に向けては、生徒や保護者との対話を更に充実させるための教育課程の編成に着手していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・不登校などの難しい問題もありますが、今後に期待します。 ・教育現場では、既に教育機器の導入が進み、授業や生徒指導に取り入れられていると聞きます。さぞご苦労も多いことと推察いたしますが、是非頑張ってほしいものです。			
学習指導	「学ぶ力」(確かな学力や活用力)を育てるために、学習意欲を高め、学習規律を身に付けさせる取組が行われている。	B	各学年では、学習会や補充学習の実施、学習計画の取組などを行い、学習に向かう雰囲気づくりに努めた。一方で、授業の分かりやすさについての肯定的な回答は大きく増加したが生徒・保護者ともには７割に満たない状況となっている。今後、更に「わかる・できる・楽しい」授業や基礎基本の定着の実現のために、校内研修を充実させていく。	B	B
	北白石中学校では、子どもが習慣生活を効果的に振り返ることができる取り組みが行われている	B	校内研修会で指導方法や点検内容について研修し、生活の見通しをもたせ、自分を振り返るための記録化の取組や授業でのＩＣＴ機器のより有効な活用を働きかけた。しかし、学習習慣の定着や、学びへの効果的な振り返りについては、生徒・保護者ともに回答が７割に達していない。その意義の伝え方や取組自体の見直しを行っていく。	A	A

（様式２）

	道徳、総合的な学習の時間は、ねらいをおさえ、内容が適切に実施されている。	B	道徳の取組では、担任・副担任問わず全教職員が道徳の授業を実践し、全ての内容項目をおさえつつ、学級経営や学年経営、行事の取組との関連を図ることができた。総合的な学習の時間については、学年間の系統性に不明確な部分があり、３年間を通した学習計画を再検討する必要がある。次年度に向けた検討は着手中である。	A	A
	特別活動（学級活動・生徒会活動・学校行事）が効果的に設定・実施されている。	A	学校行事については、行事が続く前期で肯定的な回答が生徒・保護者ともに８割を超えて高く、後期は前期に比べて下がっている傾向がある。今後はそれぞれの取組の内容や実施時期、授業や他の領域とを結び付けて更に充実していけるよう推進していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見					
生徒指導	生徒理解を目的とした教育相談や実態調査を通して、適切な対応や指導が行われている。	A	前年度と比較し、生徒指導事例が大幅に増加しており、家庭や外部機関との連携が必要な事例が多くなっている。教師による相談体制などには生徒・保護者ともに７割を超えて肯定的な回答となっている。しかし、不登校生徒の増加傾向は続いており、担任の負担も大きく、困難に直面している。校内組織の再編や生徒指導機能の見直しを図り、より安心感と自己肯定感をもつことができる学校づくりを目指していく。	A	A
	基本的な生活習慣や規範意識を育み、落ち着いた学校生活を送るための指導が行われている。	B	挨拶・言葉遣いなど基本的な生活習慣については、生徒・保護者の回答では８割程度の肯定的な回答がある。一方で、教職員の評価は低く、更なる改善の余地がある。突発的な生徒指導事例が発生することもあり、今後も生徒理解と組織的な対応に取り組んでいく。	A	
	自分や相手を思い、いたわる心を育て、いじめ防止の取組が行われている。	A	教育相談や懇談、各種アンケートを活用しながら、日常的にも生徒の声に耳を傾け、職員間での情報交流を通して生徒の個別のニーズに対応した支援を強化してきた。いじめについては未然防止とともに小さな情報を見逃さずキャッチし、必要に応じて組織的な対応を取った。今後も継続していく。	A	A
	特別支援教育、不登校支援など、個に応じた校内体制が整備されている。	A	外部人材を積極的に活用し、教師との連携を模索しながら、対応を試行錯誤してきた。一方、保護者の多様なニーズに応え切れず学校として対応に苦慮することも増えている。不登校生徒や特別支援教育について今後も重点として、研修や校内体制の整備、積極的な外部機関との連携を強化していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・ＳＮＳ等が起因となる問題が多い時代ですが、今後に期待します。			
その他	学校事故等の緊急事態発生への対応、個人情報等の管理が適切に行われている。	B	突発的な事故の発生時は、教師が複数人で対応することが浸透している。資料や文書、情報の保存や管理、保管に関する、注意喚起や周知を組織的に行い。前年度よりも大幅に改善されたが、徹底されていない部分は更に強化していく。	A	A
	「開かれた学校」をめざし、ＰＴＡ、保護者、地域や外部機関との連携した活動を行っている。	A	授業参観や陸上競技大会、合唱コンクールなどで多くの保護者の参加があった。次年度は更に実施時期や要領を工夫し、保護者と学校の連携を大切にしていく。また学校行事の動画配信等の取組も検討していく。	A	A
	ホームページやおたより等、学校からの情報発信を充実させている。	A	学校だよりやホームページにおいて、日常的な教育活動等、積極的に情報発信した。今後は、ペーパーレス化を進め、ホームページや「すぐーる」によるメール配信等、ＩＣＴ機器も活用しながら、お知らせやアンケート等に取り組んでいく。	A	A
	小学校との連携や地域と一体となった教育活動を重視している。	A	小中連携においては、乗り入れ授業、部活動見学、小学生訪問、小６の中学校訪問などを行った。小中一貫した教育におけるパートナー校間の連携には、今一度グランドデザインの検討と確認が必要である。今後はコミュニティースクールを視野に入れた自治的な活動にも取り組んでいきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・次年度は、実際に学校に訪問し、評価したいと思います。 ・今後、コミュニティースクールが正式にスタートする中で、先生方にはより忙しい毎日だと思いますが、より良い北白石中学校を。			